

# 情報かわら版

5



今月の表紙：藤の花（新潟市江南区）

## トピックス

- にいがた地鶏で農福連携 ～ワークセンターにしうみ～
- 新大コシヒカリ播種作業実演会が行われました
- 新潟市みどりの農業推進プロジェクトにおける  
取組説明会が行われました
- 需要に応じた米生産の部屋 ～需要に応じた多様な米の作付けについて～

## 特集

新潟県拠点「みどり戦略取組グループ」連載第1回  
～農林水産省「みどりの食料システム戦略」について～

電子版はこちら

## お知らせ

- 「北陸しあわせ彩景フォトコンテスト」作品募集！



# にいがた地鶏で 農福連携

糸魚川市にある「社会福祉法人奴奈川福祉会ワークセンターにしうみ」で生産しているにいがた地鶏「**翠鶏（みどり）**」について、目標工賃達成指導員の上原さんにお話をお聞きしました。



糸魚川市が原産地である<sup>ひすい</sup>翡翠と<sup>みどり</sup>鶏とを合わせた公募によるブランド名「**翠鶏**」

## 「<sup>みどり</sup>翠鶏」の飼育

新潟県農業総合研究所畜産研究センター（三条市）から、冬期間（11月から3月）を除き生後0日の雄雛600羽を年2回仕入れています。平飼い鶏舎で約110日間飼育し、年間約1,200羽を出荷します。

施設利用者は、午前午後の給餌、給水、清掃、消毒作業を行っています。自動給餌機の採用で人との接触を減らし、ストレスを溜めないようにしています。併せて飼育密度を低くし運動量を増やすことで肉付きが良く、より健康的な飼育をしています。



後方が施設、前方が鶏舎

## 「ワークセンターにしうみ」

当センターは、就労継続支援B型の施設として就労を希望する施設利用者に対し、様々な活動や訓練等を支援しています。その取り組みとして「<sup>みどり</sup>翠鶏」の飼育・販売等を行っています。

本施設の利用者は常時33名です。このうち「<sup>みどり</sup>翠鶏」の飼育は指導員と施設利用者4名で行い、食肉加工業者で処理を終えた地鶏肉等の加工は施設利用者3～4名で行っています。



自動給餌機で給餌（赤・黄色の器材が自動給餌機）

旧南西海小学校校舎を活用した就労支援施設で、グラウンドだった場所に鶏舎（左）と菜園（下）を設置しています。



菜園

## 循環型農業

「<sup>みどり</sup>翠鶏」には、新潟県産のコシヒカリと配合飼料に乳酸菌（腸内環境を整える）を混ぜたものを与えています。

鶏舎の敷材には、地元で出された<sup>きゅうひ</sup>もみ殻を使用しています。厩肥にも乳酸菌を混ぜ堆肥化しています。この堆肥は乳酸菌の効果により臭気が抑えられ使いやすく、米生産を営む施設外就労先や当センターの菜園に還元しています。



防護服での作業



<sup>みどり</sup>「翠鶏」を使った炊き込みご飯の素

## 鶏肉の加工販売

食肉加工を終えた地鶏肉を施設内で精肉形成、加工製造し<sup>みどり</sup>「翠鶏」を冠した商品として販売しています。

特に、販売先は県内外の飲食店への提供や糸魚川市のふるさと納税の返礼品として喜ばれています。また、地域のイベントに参加し、施設利用者自ら焼き鳥などの提供をしています。

## 農福連携を取り組む中で

動物との触れ合いで施設利用者の心身形成が図られるほか、作業マニュアルの理解度が高まることで施設利用者の成長がみられます。また、屋外作業は室内に比べ、生き生きとし積極性を感じられます。作業が上手く出来た際は、褒めることで次の新しい仕事への張り合いにつながれると思います。

施設利用者の減少、配合飼料など経費高騰が施設の課題となっています。

農福連携により地域の方と関わりを持つ中で、少しでも地域協力ができる新たな取り組みも考えていきたいです。

<sup>みどり</sup>「翠鶏」のお肉は、うまみ成分イノシン酸が多く、脂肪分が少なく保水性が高いため、ヘルシーかつジューシーな味わいだそうです。皆さんも是非ご賞味ください。

# 新大コシヒカリ 播種作業実演会が行われました

令和8年5月8日、燕市で開催された「新大コシヒカリ<sup>はしゅ</sup>播種<sup>ちよくは</sup>作業実演会」に参加しました。当日は、ドローンや直播機<sup>はしゅ</sup>による新大コシヒカリの播種<sup>ちよくは</sup>、無人仕様の直播機<sup>はしゅ</sup>によるコシヒカリの播種など、スマート農業技術を活用した播種作業が実演されました。

また、新潟大学特任教授の三ツ井敏明氏による講演や、株式会社クボタからの情報提供があり、水稻直播栽培の現状と今後について理解を深める機会となりました。

## ～ 実演会の様子 ～

株式会社クボタの担当者からは、「スマート農業機械の性能を十分に発揮するためには、機械に合わせたほ場整備などが必要」との説明がありました。



▲ ドローンによる直播



▲ 直播機による直播



▲ 無人の直播機による直播

## ～ 講演会の様子 ～

三ツ井氏の講演では、高温登熟耐性品種「新大コシヒカリ(品種名:コシヒカリ新潟大学NU1号)」の特性、2026年の取組としてNU1号を活用した環境にやさしい米づくりや、商品開発を通じた地域連携について説明がありました。

NU1号は、高温耐性に加え、乾燥や冠水にも強いマルチストレス耐性を備えていることが特徴です。これにより、中干し期間を延長しても品質が安定し、水田からのメタンガス排出量削減といった環境負荷低減効果が期待でき、また、水害など自然災害時でも品質低下を抑える可能性も示されました。



▲ 三ツ井氏による講演の様子

さらに、雪室(雪を利用した天然の冷蔵庫)を活用した米の保存方法に着目し、県内企業と連携した保冷保湿米保存庫(米びつ)の開発や、新大コシヒカリを使ったおにぎりやパックご飯の商品開発など、産学連携による地域活性化の取組が進められているとの説明がありました。



今後、スマート農業技術の活用により、作業の効率化・省力化が進むとともに、新品種の導入との組み合わせによって、さらなる生産性向上や環境に配慮した持続可能な米づくりの展開が期待されます。

# 新潟市みどりの農業推進プロジェクトにおける取組説明会が行われました

新潟市では、水田から排出される温室効果ガス(メタン)の削減を目的に、「新潟市みどりの農業推進プロジェクト」に取り組んでいます。

この取組は、令和6年10月29日にJークレジット制度のプロジェクトとして承認・登録され、**農業分野において自治体が運営・管理を担う全国初の事例**となりました。

これを受け、令和7年度から水稻栽培における中干し期間の延長に取り組み、水田からのメタンガスの削減とJークレジットの創出・販売を進めています。

令和8年4月24日には、新潟市農業活性化研究センター(南区)において農業法人等の担当者向けの説明会が開催されました。

説明会では、令和8年度の取組内容に加え、令和8年3月に国の認証を受け、令和7年度取組分のクレジットの販売が可能となったことなどが説明されました。5月11日からは、市内に拠点を有する企業などを対象にクレジットの購入申込受付が行われています。

今後、農業者や関係団体、企業が連携し、環境に配慮した持続可能な農業の推進と地域経済の活性化が期待されます。



(新潟市HP) 新潟市みどりの農業推進プロジェクト

[https://www.city.niigata.lg.jp/business/shoku\\_hana/shi\\_setsuannai/nougyokasseika/jigyo/j-credit/project.html](https://www.city.niigata.lg.jp/business/shoku_hana/shi_setsuannai/nougyokasseika/jigyo/j-credit/project.html)



(農林水産省HP)

農林水産分野のJークレジット制度

[https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kan\\_kyo/seisaku/climate/jcredit/top.html](https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kan_kyo/seisaku/climate/jcredit/top.html)



## 需要に応じた米生産の部屋 ～需要に応じた多様な米の作付けについて～

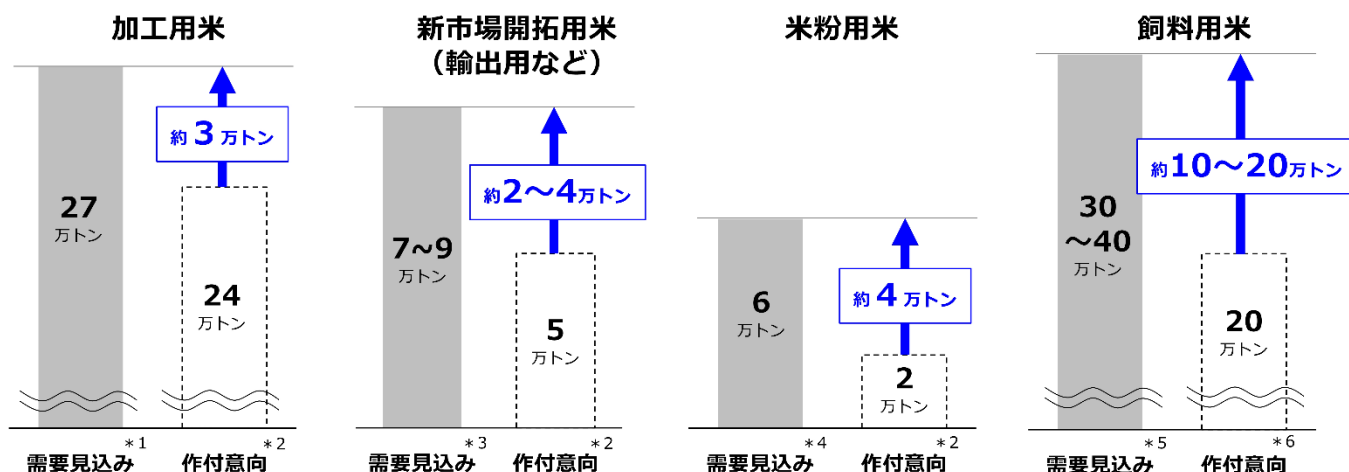
令和8年4月末時点の全国における主食用米の作付意向面積は136.3万ha(対前年0.4万ha減)となっており、1月末時点から0.2万ha増えました。

この結果を踏まえると、主食用米は需要を超える生産が見込まれる一方で、加工用米・新市場開拓用米・米粉用米・飼料用米について、増産が可能な状況と見込まれます。

単位：十ha

| 都道府県 | 主食用米     |          |          | 備蓄米      |          | 戦略作物 |      |           |      |                        |     |      |     |      |      |                       |          |      |      |      |      |       |       |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|------|------|-----------|------|------------------------|-----|------|-----|------|------|-----------------------|----------|------|------|------|------|-------|-------|
|      |          |          |          |          |          | 加工用米 |      | 新規<br>需要米 |      | 新市場<br>開拓用米<br>(輸出用米等) |     | 米粉用米 |     | 飼料用米 |      | WCS用稲<br>稲発酵粗<br>飼料用稲 |          | 麦    |      | 大豆   |      | 合計    |       |
|      | R7<br>実績 | R8<br>意向 | R7<br>実績 | R8<br>意向 | R7<br>実績 |      |      |           |      |                        |     |      |     |      |      | R8<br>意向              | R7<br>実績 |      |      |      |      |       |       |
| 全国計  | 136.7万   | 136.3万   |          | 30.0     | 26.7     | 44.2 | 44.6 | 107.5     | 91.9 | 9.0                    | 9.7 | 3.5  | 3.9 | 46.0 | 33.1 | 48.9                  | 45.1     | 94.8 | 87.7 | 74.9 | 69.6 | 321.4 | 293.8 |
| 新 潟  | 108.6    | 107.8    | →        | 4.7      | 1.2      | 6.6  | 7.3  | 4.2       | 3.4  | 1.5                    | 1.1 | 0.7  | 0.8 | 1.3  | 0.9  | 0.6                   | 0.6      | 0.2  | 0.2  | 3.3  | 2.9  | 14.4  | 13.8  |

単位:千ha



\*1 令和4～6年産の生産量の平均 \*2 令和8年4月末時点の作付意向調査の面積に平均単収(538kg/10a)を乗じて試算 \*3 令和8年輸出需要量見込み(団体聞き取り) \*4 令和8年需要量見込み(農林水産省:麦の需給に関する見通し) \*5 令和4～6年度に畜産農家から指定配合のうち、国産米の配割指定に基づく利用実績(配合飼料メーカーへの聞き取り)、畜産農家の飼料用米生産者からの直接購入実績(農林水産省による推計)を基に算出 \*6 令和8年4月末時点の作付意向調査の面積(3.3万ha)に多収品種を想定した単収(592kg/10a(平均単収の1割増と想定))を乗じて試算

(資料) 農林水産省  
「米に関するマンスリーレポート(令和8年5月)」

詳細は、下記のURL又は二次元バーコードからご確認ください。  
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>



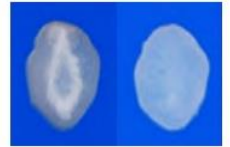
令和8年4月、新潟県拠点において「みどり戦略取組グループ」を発足しました。  
今後、「情報かわら版」において、環境にやさしい持続可能な取組について連載形式で発信していきます。

第1回は、農林水産省の取組である「**みどりの食料システム戦略**」についてご紹介します。

## 日本の農林水産業は様々な課題に直面

### 我が国の気温変化と農産物への影響

- ▶ 日本の年平均気温は、100年あたり1.44℃の割合で上昇
- ▶ 2025年の日本の年平均気温は、1898年以降で3番目に高い値となり、直近3年間で従来の1～3位の記録を更新（1位：2024年、2位：2023年）
- ▶ 農林水産業は気候変動の影響を受けやすく、高温による品質低下、大規模自然災害の増加などが既に発生



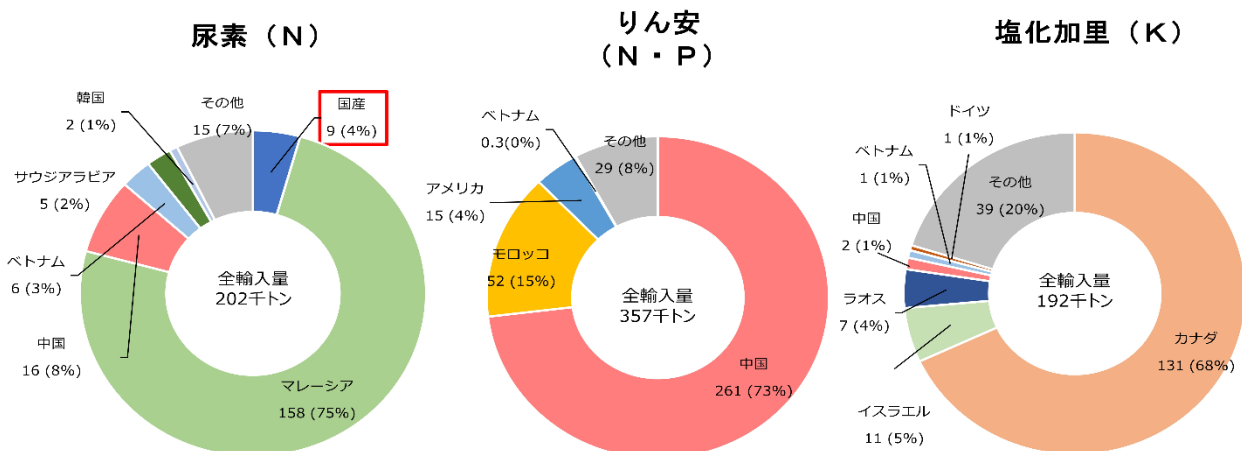
高温による白未熟粒の発生(左)  
((右)は整粒)

### 世界全体と日本の農林水産分野の温室効果ガス(GHG)の排出

- ▶ 世界の温室効果ガス(GHG)の排出量は、CO2換算で**590億トン**
- ▶ このうち、農業・林業・その他土地利用の排出量は**22%**(2019年)
- ▶ 日本の排出量は**10.71億トン**で、そのうち農林水産分野は**5,103万トン**、全排出量の**4.8%**(2023年度)
- ▶ 一方で日本の吸収量は**5,369万トン**で このうち森林が**4,517万トン**、農地・牧草地が**686万トン**、沿岸湿地が**34万トン**(2023年度)

### 日本の食料生産を支える肥料原料の状況

- ▶ 我が国は食料生産を支える肥料原料のほとんどを輸入に依存  
R 5 肥料年度（令和5年7月～令和6年6月）



### 生産基盤の脆弱化 地域コミュニティの衰退

- ▶ 日本の生産者は年々高齢化し、今後一層の担い手減少が見込まれ、労働力不足等の生産基盤の脆弱化が深刻な課題となっている
- ▶ 農山漁村の人口減少は特に農村の平地や山間部で顕著に見られる
- ▶ これらの影響を受け、里地・里山・里海の管理・利用の低下による生物多様性の損失が続いている

農林水産省では、日本の食料・農林水産業を取り巻く現状を変えていくために、  
食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する  
「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

- 地球温暖化対策や生物多様性保全など、食料システムにおける環境問題への世界的な対応が、2020年代に入りさらに進展
- 我が国の農林水産業の生産現場においても、気候変動の影響や資材調達の不安定化が年々深刻化。食料システムの持続性確保は喫緊の課題
- こうした状況の下、農林水産省において  
令和3年に「みどりの食料システム戦略」を策定

「みどりの食料システム戦略」PR動画

<https://www.youtube.com/watch?v=aMJmHVyGmyY>



## 具体的な取組(図:中央)

- 将来にわたる持続可能な食料システム(調達、生産、加工・流通、消費)の確立のため、中長期的な観点から各段階において環境負荷低減の取組を推進
- 2050年の目指す姿の実現に向けて、中間目標として、計14のKPI2030年目標を決定 (KPI=重要達成度指標)

## 戦略実現を支える主な制度(図:左)

- 「食料・農業・農村基本法」改正、基本法に基づく「基本計画」改定並びに「みどりの食料システム法(環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律)」制定など

## 戦略実現に向けた主な取組(図:右)

- スマート農業、J-クレジットの活用などの取組を推進

農林水産省  
ホームページ

(参考) みどりの食料システム戦略トップページ

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>



プラス

次号では、北陸農政局独自プロジェクト「+みどり計画」等をご紹介します!

# 「北陸しあわせ彩景フォトコンテスト」作品募集！

北陸農政局では、令和9(2027)年3月19日(金曜日)から9月26日(日曜日)まで横浜市内にて開催される**GREEN×EXPO 2027**を契機に、北陸地域の花や花き生産への関心を高め、北陸地域の花の魅力を広く発信するため、「北陸しあわせ彩景フォトコンテスト」を開催します。どなたでも応募できますので、皆様ぜひ奮ってご応募ください。

## テーマ

### 「幸せを創る明日の風景」



- ・北陸地域の花を題材に、未来に続く豊かな暮らしや風景を表現した写真
- ・花そのものの美しさだけでなく、人々の暮らしや地域の風景との関わりを感じられる写真

## 撮影場所

新潟県、富山県、石川県、福井県内で撮影されたものに限りです

## 応募対象 撮影期間

令和7年11月1日(土曜日)  
～ 令和8年10月30日(金曜日)

## 応募締切

令和8年10月30日(金曜日)



## 北陸農政局 プレスリリース

応募方法・コンテストの詳細は、下記のURL又は二次元バーコードからご確認ください。

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/news/press/seisan/260421.html>



## 編集後記

「新大コシヒカリ」の播種作業実演会に参加してきました。ロボット田植え機やドローンによる直播技術に触れ、技術の進歩に驚くとともに興味がわきました。高温や乾燥、冠水に強い「新大コシヒカリ」の特性に期待しつつ、今年もまた暑い夏がやってくるのだらうと感じました。



## お問い合わせ



北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「**農業施策の〇〇について聞きたい。**」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点 地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

新潟県拠点HP  
はこちら▼

